

朝日輝く学び舎に

愛の光をかけつつ

清く正しくすこやかに

生きていこうよ胸はつて

あわわらの米原小学校

## 2 びわの湖波白く

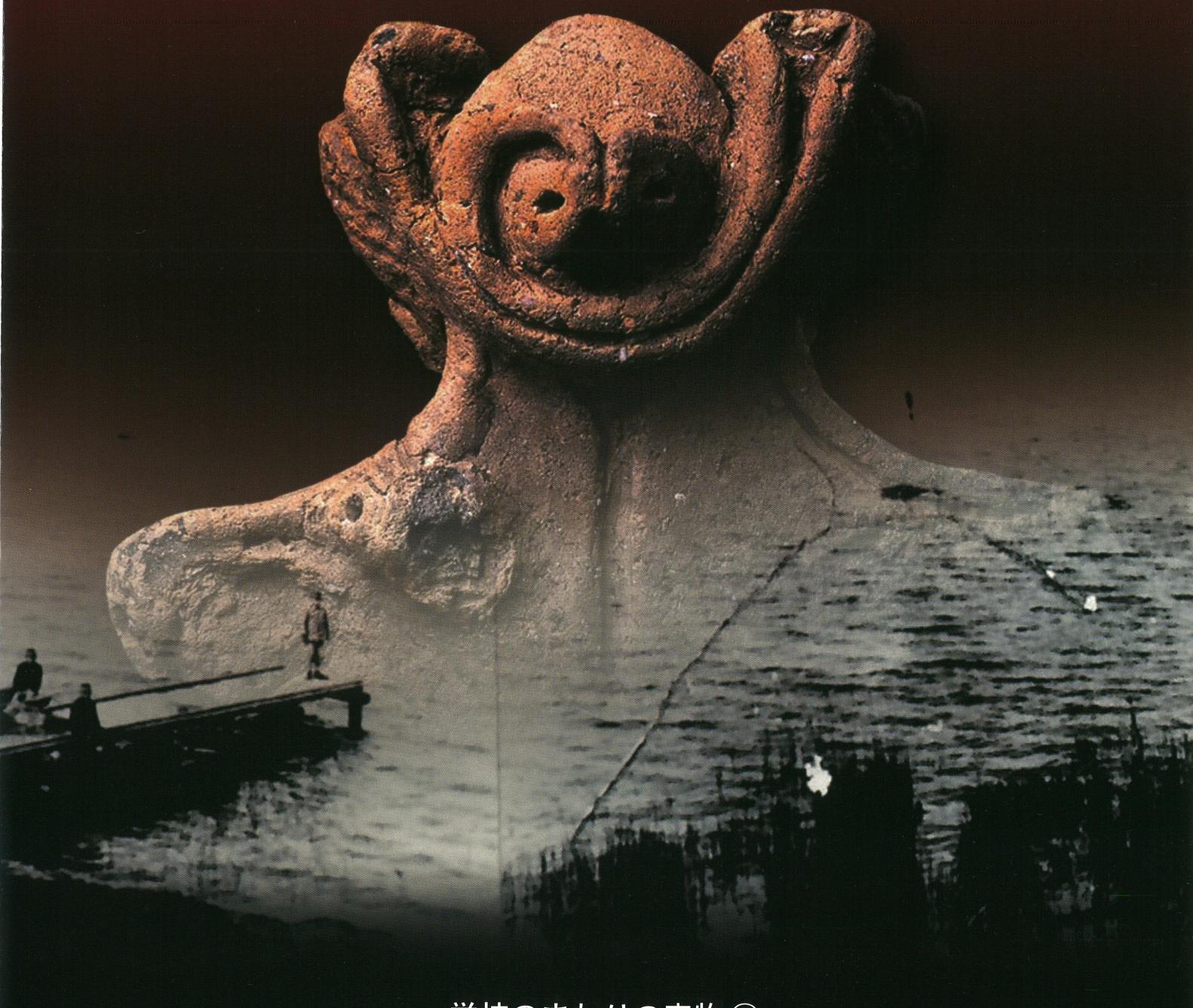
よせてはかえすさざなみに

未来の夢をえがきつつ

希望も高くたくましく

のびていこうよかぎりなく

あわわらの米原小学校



学校のまわりの宝物③

## 米原小学校区

## 【校 区】

梅ヶ原、米原、米原西、下多良、中多良、上多良、多良、朝妻、筑摩、  
磯、入江、賀目山、米原ステーションタウン

## 昔のひとのくらしのあとをさぐる（校区の主な遺跡）

## ■磯山城遺跡（縄文時代／磯）

縄文時代の長いあいだ続いた遺跡です。出土品には、東海・北陸・中部地方など各地の特徴をもつ土器や、石器には大阪府二上山産のサヌカイト、島根県隱岐島産の黒曜石などが使われていて、縄文時代の交流が広い範囲でおこなわれていたことがわかりました。滋賀県で一番古い人骨が出土し、仰向きで腰の部分から足をまっすぐに頭部まで曲げられていました。



出土した人骨



5号丸木舟



河童型土偶



入江内湖遺跡の木の道具



磯崎2号墳



朝妻湊跡

## ■筑摩佃遺跡（縄文時代／朝妻筑摩／土偶は市文化財）

土偶は縄文時代に作られた、安産や豊作、わざわい除けなどのまじないの土人形です。東日本に多く、近畿では数も少なくてシンプルです。筑摩佃遺跡の土偶は県内で一番大きく、皿のような頭から河童型土偶とよばれ、北陸地方で集中的にみつかっています。土器も北陸のものが多く、縄文中期にこの土偶をまつる北陸の人々が米原へ移り住んだようです。



## ■入江内湖遺跡（縄文～平安時代／入江ほか）

縄文時代早期から平安時代までの大規模な遺跡です。土器のほか、縄文時代の骨で作られたヤスやつり針、古墳時代の鉄のヤス・網のおもりなど、漁業に関わるものが多く見つかっています。遺跡は泥で密封されているので、木や骨・角の道具も腐ることなく、縄文時代の丸木舟や漆塗りの器のほか、古墳時代の農具、たも、弓などがみつかっています。



## ■磯崎古墳群（古墳時代／磯）

磯山が琵琶湖に突き出した先端にある古墳です。大正9年、湖岸の道路建設でみつかりました。磯山の山頂にも神塚古墳やヒジリ山古墳があって、古墳の密集地です。昭和47年に発掘調査がおこなわれ、納められた品のなかに、網のおもりがあることや、琵琶湖を望む立地から、漁業や湖上交通に関する人の古墳と考えられます。



## ■朝妻湊跡と朝妻城跡（奈良～中世／朝妻筑摩）

朝妻湊は奈良時代から中世にかけての琵琶湖の重要な湊でした。古代には、近くに朝廷に食物を納める筑摩御厨がありました。東日本や北陸に通じ、東からの人や物資が、大津をへて都へつながる琵琶湖の東の玄関口です。中世には新庄直頼により朝妻城が築かれました。江戸時代には、米原湊にその役割が移りました。

## ■太尾山城跡（戦国時代／米原）

地元の米原氏が築いたといわれています。たびたび、南近江の六角氏と北近江の京極氏・浅井氏の戦いの舞台となります。標高254mの山頂に、北城と南城があり、土壘（土の堀）で守られた建物があった場所や、尾根を切断して敵の動きをさまたげる堀切などの防御施設がみられます。



## 【資料館を利用しよう！】

## 琵琶湖干拓資料館

(米原市入江522-3)

休館日：土曜日、日曜日、休祝日  
入館料：無料



# 校区のようす

米原小学校区は米原市の西端にあります。天野川が北の端を流れ、朝妻で琵琶湖にそそぎます。米原駅の東側には太尾山がありますが、校区はすべて天野川によって形成された平野部にあります。かつて、米原駅の南西には、琵琶湖の内湖としては大中の湖に次ぐ広さの「入江内湖」がありました。しかし、戦争のためのお米を増産することを目的に、昭和19年から干拓がおこなわれ、広い水田にかわりました。入江内湖の南西端にある磯山は、かつて入江内湖・松原内湖と琵琶湖に囲まれた島のような景色でした。ここから延びる長さ約2kmの砂州が琵琶湖と内湖を分け、ここに磯の集落がありました。米原と梅ヶ原の集落は、かつての北国街道沿いにあり、江戸時代、米原は宿場町として、また、彦根藩三湊のひとつとして物と人が集まりました。現在では鉄道のまちとして知られています。

# 校区のあゆみ

入江内湖は縄文時代から平安時代までの遺跡で、国内最古級の縄文時代前期前半(約5000年前)の丸木舟など5艘がみつかり、古墳時代までのさまざまな木や骨の製品がみつかっています。磯山城遺跡からは、滋賀県で一番古い縄文時代早期の人骨が出土しました。筑摩伝遺跡からは、北陸の河童型土偶がみつかっていて、北陸の人々が米原に移り住んだことがわかりました。琵琶湖と内湖、天野川、磯山や太尾山に囲まれた米原の地は県内でもっとも早く開け、住みやすかった場所でした。弥生時代にはいち早く米作りがはじまりました。戦国時代、この地は戦国武将がいききし、磯山城・佐和山城・太尾山城などが築かれます。

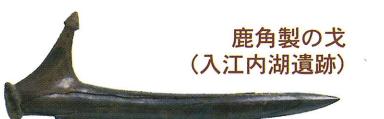


湖底遺跡の調査

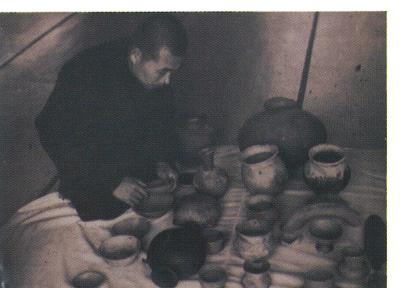


鍋冠祭

大谷吉継の首塚



鹿角製の戈  
(入江内湖遺跡)



土器を整理する磯崎文五郎さん

## 米原小アラカルト

### 【自然】琵琶湖の湖底遺跡

琵琶湖には約90か所の湖底遺跡があります。尚江千軒遺跡は朝妻筑摩沖の湖底にあります。いいつたえでは、尚江という大きな村が、正中2年(1325)10月11日の大地震で琵琶湖に沈みました。筑摩神社の沖では、7~8世紀ごろの土器と一緒に大きな石の集まりがみつかり、古墳の可能性が高いといわれています。磯の湖底にも鳥居が沈んでいるといいます。

### 【まつり】鍋冠祭(市文化財)と筑摩御厨

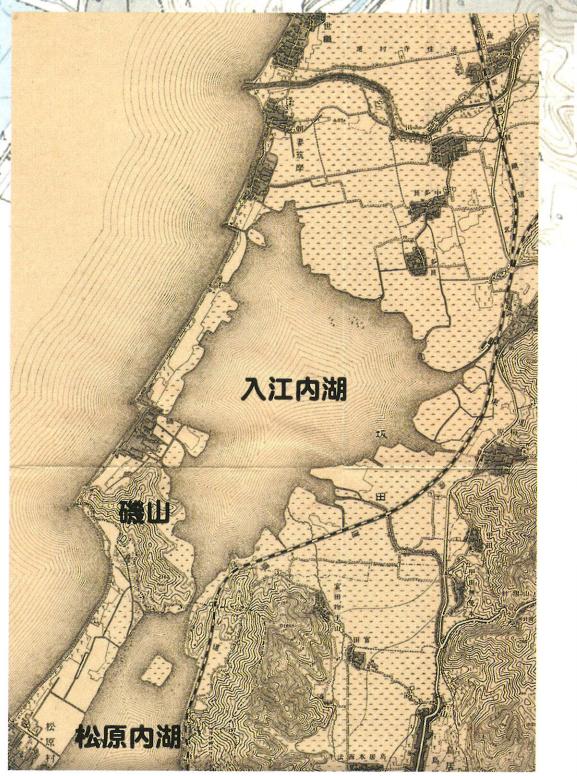
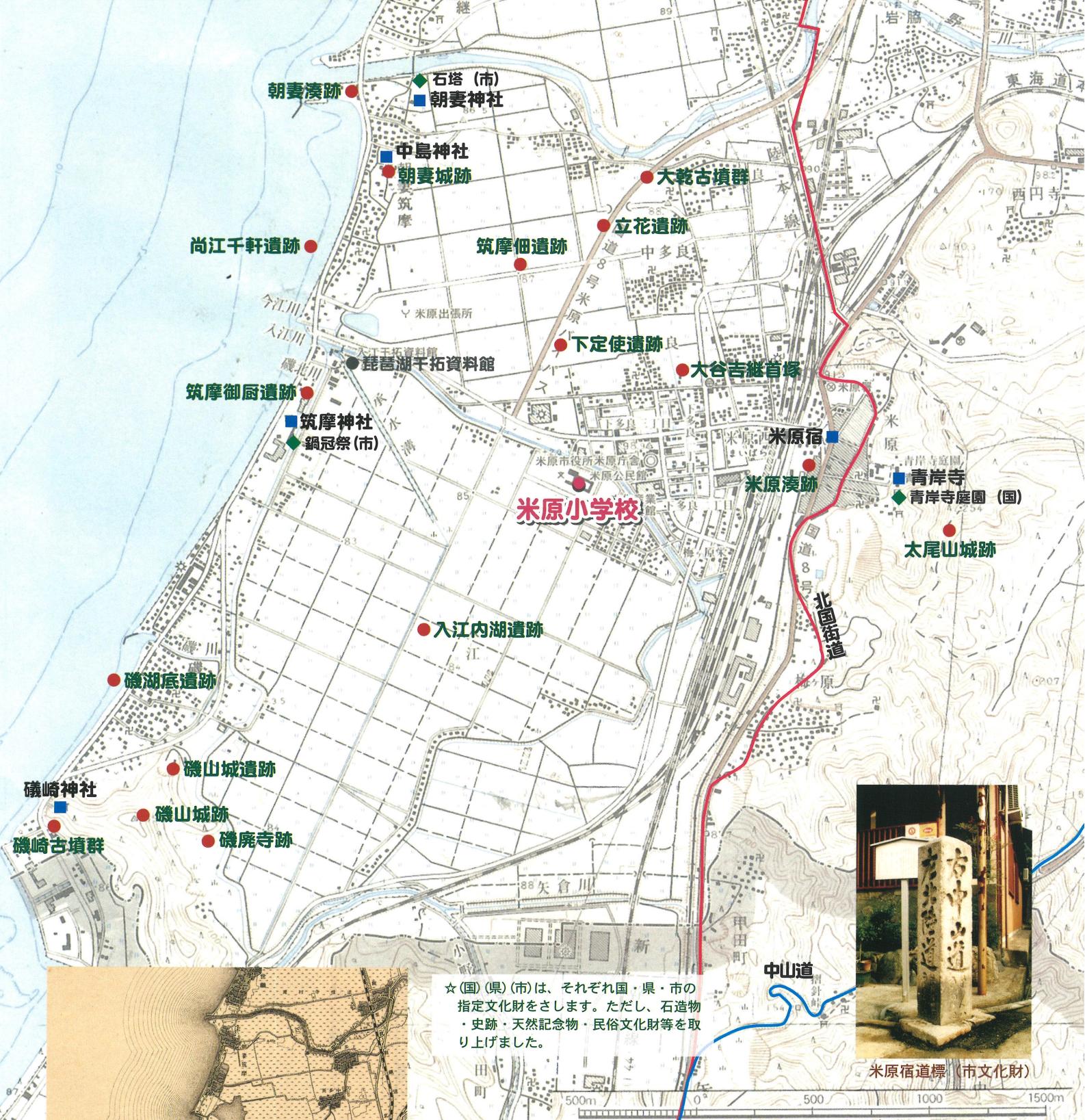
『伊勢物語』によまれた鍋冠祭は、平安時代の貴族にも「筑摩のまつり」として知られた筑摩神社の春のお祭りです。8人の少女が鍋や釜のかぶりものをかぶります。筑摩神社の神は食べ物の神まで、筑摩には奈良時代から中世にかけて、都へ食べ物を調達する役所「御厨」がありました。発掘調査では、硯や小刀など、役所で使う道具がみつかっています。鍋冠祭は少女に注目が集まりますが、さまざまな役や太鼓山などの出し物があります。

### 【社寺】大谷吉継の首塚

関ヶ原の戦いで、石田三成がひきいる西軍の敗北をさとった大谷吉継は、自ら腹を切ってなくなります。この吉継の首をかかえて、甥の僧・祐玄は、吉継が支配していた越前国敦賀(福井県)へ逃れます。その途中で下多良に埋めたといわれています。小さな祠に1m前後の一石五輪塔がまつられています。

### 【郷土の先人】磯崎文五郎(磯)

入江内湖の干拓がはじまると、たくさんの土器が出てきました。磯崎文五郎さんは独学で考古学を勉強し、干拓地を熱心に調べて歩かれて、土器や石器を集められ、米原の歴史をあきらかにされました。琵琶湖干拓資料館に展示されています。



入江内湖 (明治26年)



干拓前の入江内湖 (昭和19年)



干拓後の入江内湖 (昭和24年)